

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1132 2014年7月号

## 「愛媛大学と連携協定を締結」

6月23日、四国森林管理局と愛媛大学は連携と協力に関する協定を締結いたしました。  
【詳細2頁】



協定調印式後

(左側 浅川京子四国森林管理局長、右側 柳澤康信愛媛大学長)





六月二三日、四国森林管理局と愛媛大学は連携と協力に関する協定を締結いたしました。

当日は愛媛大学本部において、双方の関係者及びマスコミを前に、浅川四国森林管理局长と柳澤愛媛大学

長による調印式が行われました。

今回の協定締結のきっかけは、平成二五年度に実施した准フォレストラー研修において愛媛大学の太田教授（農学部森林資源学コース）に講師をしていただいたこと

縁によるものです。研修が進む中で、研修が終わってからも、継続的な連携が

できないものかとどちらから

というわけでもなく、話が持ち上がり、今般、協定と

いう形で実現しました。

この協定は、双方が、それぞれの人材や資源の活用

を図りながら、持続的かつ

安定的な木材の供給をはじめとする森林の有する多面的機能の持続的発揮、森林・

林業の再生及び地域の振興に貢献できるような調査研

究及び人材育成等の推進を

図ることを目的としています。



協定調印

そして、連携、協力する事項として、「人材育成」と「地域振興」が謳われています。

具体的な取組のひとつとして、高性能林業機械による伐木造材、架線系作業システム、路網作設といった

大学演習林ではなかなか経験することができない国有

林野事業の普段どおりの現場を見てもらうことが学生

にとつては、貴重な経験となり、いい研修の機会にな

ると考えています。本年度の取組としては、

当局で開発したニホンジカ捕獲の小型囲いわなを大学演習林に設置し、学生の研修等に活用すること、国有

林内における路網作設や最新の架線系作業システムに

ついでの現地検討等を考えているところでは、

調印式の後には、連携協定締結記念シンポジウムと

称して、双方から記念講演および研究発表が行われました。

浅川局长からは「我が国の森林・林業と四国の国有

林」と題して、森林・林業の現状と課題、四国森林管理

局の取組、大型製材工場の稼働や木質バイオマスの電

所の建設といった四国の

動きについて紹介いたしました。

当局にとつて大学との協定、愛媛大学にとつては国の機関との協定となりませんが、今後、連携を深めていきたいと考えています。



浅川局长記念講演



六月一五日、高知県香南市立野市小学校の環境フェスティバルで森林木工教室を開催しました。

このフェスティバルは、「環境に関わる学習を児童が保護者とともに学んだり、体験することで、環境に対する関心を高めること」を目的に、毎年、父の日を参観日として行われています。今年で八回目となるようです。

講座は、昔遊び、災害時の食の備え、光の話と実験など二六講座からなり、四

国森林管理局は、「木工クラフトを通して木材の良さを知り、森林の役割について考える」をテーマに森林木工教室を開催しました。

ラフトを通して木材の良さを知り、森林の役割について考える」をテーマに森林木工教室を開催しました。

局の講座には、二年生から四年生の二四名の参加がありました。

最初に当局、技術普及課長補佐から挨拶を兼ねスタッフ紹介、講座の内容を説明した後、「森林の働きについて」の説明を行いました。

講座は、昔遊び、災害時の食の備え、光の話と実験など二六講座からなり、四

を考えた学習にし、野市小

学校の近くを流れている物部川を題材として森林教室に導入したことで児童達の関心が高まりました。

まず、クイズ方式で物部川のこと、野市町の水道の水はどこからきているのか。といった内容で児童達が身近な川について学習しました。

次に、森林の働きについては、児童達に発言して



「森林の働き」の学習

もらい、パネルを用いて復習するといった手法で実施し、「森林は緑のダム」といわれ、皆さんが生活をしていく上で大切な役割を果たしていることの説明を行いました。

学習の最後に「この講座をきっかけに、家に帰ってお父さん、お母さんと一緒に考えて下さい。」とお願いをし、森林教室を終えました。

木工教室は、正岡さん（OB）とボランティアの二名を加え五名で指導しました。

作品が一一種類と幅広くなっていることから、指導が行き届かない面があるのではないかと心配していま

ましたが、父母の参加があったのでスムーズに進行することが出来ました。

作品によっては、三〇分足らずで完成するものもあり、余った時間の対応としてジージゼミ（糸電話を応用した竹製品で、割箸の先に松ヤニを塗って廻すと蟬の鳴き声をする）作りを行いました。これが人気で

児童だけでなく父母も一緒に作って作っていました。作品作りに時間一杯かかった子供達には完成したジージゼミをプレゼントしました。

今回の森林教室は、二年

生から四年生までの児童達でしたが、「森林の大切さ」の話にも熱心に耳を傾け発言し、木工品づくりでも指

導者の言うことをよく聞いていました。

児童達の感想文の中に「森林は土しやさいがいを

ふせいだり水や空気をきれいにしてくれます。工作は色をぬったりボンドでつけたりしてたいへんでした、でも、とてもいい物ができたのでうれしかったです」といった感想が寄せられました。

また、担当の先生からは、「森林木工教室の講座は非常に人気があったのでまたお願いすることになると思います。その際はよろしくお願ひします。」と早くも来年の講座のお願いがありました。

今年度、技術普及課としての最初の森林木工教室で

したが、「森林の働き」を考える一つのきっかけ作りになったのではないかと考えています。

今年も七月から本格的な出前授業が始まります。クイズ形式、地域や学校に

添った手作り教材など昨年度とは違った森林教室にも取り組んでいきたいと考えています。



親子で仲良く木工品づくり

## 職員永年勤続表彰



平成二六年度四国森林管理局職員永年勤続表彰式を六月二五日、局大会議室で行いました。

表彰式では、浅川局長から受賞者の長年にわたる職務への努力と受賞者を支えてこられた家族の方々への労いの言葉と『平成二五年四月から一般会計移行し、今後は一層の公益重視の管理経営を行うとともに、民有林支援の強化を図ることとして、皆様が長年に亘り培われた豊富な見識と経験を今後とも

活用していくことが必要であり、それぞれの職場において、開かれた「国民のための森林」に向け、また、民有林も含めた四国全体の森林・林業の活性化に向け、精一杯御尽力願いたい。』との式辞があり、林野庁長官の祝辞を井上業務管理官が代読し、その後受賞者一人一人に局長から表彰状が手渡されました。

次に、全国林野関連労働組合中央執行委員長からのメッセージが総務課長から披露されました。

また、受賞者を代表して、計画保全部の戸島さんから、「私共も微力ではありますが、従来積み重ねてきた林業技術の継承に努め、これまでの体験を業務に活かし、「国民のための国有林」として立派な山を次世代に引き継ぐとともに、地域の森林・林業及び木材産業等の発展に貢献していくことが、私どもに課せられた重要な責務であると考えております。」と答辞がありました。



答 辞

永年勤続表彰受賞者

\*三〇年以上

- 総務企画部 技 藤原将勉
- 総務企画部 技 大崎景悟
- 計画保全部 技 戸島勝文
- 森林整備部 技 橋口福男
- 森林整備部 技 下岡 豊
- 森林整備部 技 渡辺督巳
- 徳島署 技 森 裕一
- 愛媛署 技 武内慈明
- 技 坂本伸一郎
- 四万十署 技 坂本行規
- 嶺北署 技 増原俊光
- 技 上岡徹也
- 技 江入力男
- 高知中部署 技 鷹野孝司

\*二〇年以上

- 総務企画部 技 帆足忠広
- 計画保全部 技 増田尚一
- 計画保全部 技 稲澤るみ
- 香川所 技 山崎賢一
- 愛媛署 技 松本純司

- 四万十署 技 岡本英典

- 嶺北署 技 西村知己

- 高知中部署 事 片岡誠人

- 事 中尾佳代

- 安芸署 技 高岡英司

- 林野庁共済組合

\*三〇年以上

- 総務企画部 (共済職員)

宮崎義浩



職員永年勤続表彰

各地のたより



六月二〇日、高知県宿毛市立小筑紫小学校の五年生二〇名を対象に、森林の働きや校庭の樹木学習と



校庭の樹木学習

樹名板の作製を行いました。この学校での森林教室は昨年に引き続きの実施です。

まず最初に、森林の大切

な働きである「水を蓄える働き」「土砂崩れを防ぐ働き」「地球の環境を守る働き」等について説明し、その後、技術普及課作製の下敷き「いろいろな木と葉っぱ」を使用し、広葉樹と針葉樹の違いや単葉と複葉の特徴、葉のつき方など基礎知識を学んだ後、校庭に出て、学校に植えられている約三〇種類の樹木について、葉や花を見たり葉に触れたりして、それぞれの樹木の名前や特徴を二班に分

かれて学習しました。そして、ヒノキの輪切り材に、ポスターカラーで和名と科名を書き、余白には、思いのイラストを描いて、樹名板を完成させ、後日それぞれに樹木に取り付けました。

今後、七月に「空飛ぶ種子」二学期には、「森林土壌の仕組みや働き等」の学習や「八面山登山」を予定しています。



完成した樹名板

さまざまな学習を通して森林や自然への興味や関心が増し、森林の大切さについて理解が深まることを期待しています。



愛媛県松野町立松野西小  
学校の四年生は、毎年度「総合的な学習の時間」を利用して森林や樹木の学習を年間を通して実施しており、今年度も二二名の生徒を対象に六月二六日に「校庭の樹木」の学習を行いました。  
まず最初に、ふれあい推進センターが行っている主な業務について説明しました。

その後、教室で技術普及

課が作製した下敷き「いろいろな木と葉っぱ」を使用し、「広葉樹と針葉樹の違い」や単葉と複葉の特徴、葉のつき方など基礎知識を学んだ後、校庭に出て、学校に植えられている約三〇種類の樹木について、葉や花を見たり葉に触れたり臭いを嗅いだりして、それぞれの



葉っぱの臭いで特徴を学習

完成した樹名板



樹木の名前や特徴を二班に分かれて学習しました。そして、ヒノキの輪切り材に、ポスターカラーで和名と科名を書き、余白には、思いのイラストを描いて、樹名板を完成させ、後日それぞれの樹木に取り付けました。  
今後、七月に「空飛ぶ種子」二学期には、「森林土壌の仕組みや働き等」「八面山登山」「炭」について学習する予定です。

さまざまな学習を通して森林や自然への興味や関心が増し、森林の大切さについて理解が深まることを期待しています。



六月二四日、高知県土佐清水市立清水小学校の五年生五二名、七月一日に宿毛市立小筑紫小学校の五年生二〇名、七月一日には、愛媛県松野町立松野西小学校四年生二二名を対象に、森林教室「空飛ぶ種子」をそれぞれ実施しました。  
まず、植物がどのような方法を使って種子を散布するのかを学習します。

風を使って飛ばす植物、

動物に実を食べさせたり、種子を付着させたりする植物、水に浮いたり漂わせたりの植物、さやがはじけたりドングリのように転がしたりする植物など、植物がさまざまな方法で種子を散布することをパワーポイントを使って紹介しました。

また、「マツ」や「テイカカズラ」の種子は、実物と風洞実験装置を使ってぐるぐる回りながら飛ぶ様



清水小学校・種子の模型を作製中

子を観察しました。

大きな翼を持つ種子「アルソミトラ」（東南アジア産のウリ科の植物）がグライダーのようにふわふわと飛ぶ様子には、「オー」と驚きの声が上がりました。

次に、「アルソミトラ」や「マツ」、「ニワウルシ」「ラワン」の種子の模型を色紙やスチレンシート等を使って作りしました。



小筑紫小学校・風洞実験中

松野西小学校・種子の模型を作製中



スチレンシートで作ったラワンの種子模型を輪ゴムで飛ばすと体育館の天井近くまで上がり、くるくると回りながら落ちてくる様子を「おもしろい」と何度も飛ばしていました。

今回の学習を通じて、植物や自然に興味を持ってもらえたものと確信しています。



七月七日、高知県土佐清水市立中浜小学校で本年度二回目の全校生徒二五名を対象に木工クラフト教室を行いました。

最初は、木工クラフトに入る前に、「木材の特徴」と題して、「大昔から木は生活の道具として使われてきたこと」、「木は方向によって強さに違いがあること」、「木はその特徴を生かしている物に使われていること。」などをパワーポイント等を使って学習しました。

その後、ヤマザクラやミズメ等の小枝などを使っ

て、一年生から三年生までは、事前に各パーツに加工したものを使って『コロコロゲーム』や『チョウとテントウムシ』等を作製しました。

また、四～六年生は、各々の想像力を生かし、鋸やナイフを使い小枝等を加工して世界で一つだけの作品を作製しました。

大半の子どもは、鋸をあまり使用した事が無く、最



低学年の作製の様子

高学年の作製の様子



初は緊張していましたが、鋸を引く時の力加減などを教えるとすぐに覚え、次々と太さが違う小枝を一定の幅に切り揃えていました。どの子も真剣な表情で取り組み、完成した作品を見せ合って、満足そうな表情を浮かべていたのが印象的でした。



七月八日、愛媛県松野町立松野東小学校の五・六年生一二名を対象に、森林教室を行いました。

最初は、「森林の大切な働き」について、パワーポイントを使用し、森林には「水を蓄える」、「山崩れを防ぐ」、「快適な環境を作る」、「地球の環境を守る」など七つの働きがあることを学習しました。また、技術普及課作製の下敷「森林の大切な働き」を生徒に配布し、森林の七つの働きを理解してもらいました。

その後、あらかじめ児童がこれまで学んだことや興味を持っている中から考えた質問「森林資源の有効活用」「人工林と天然林の違い」など一五問について回答し、森林の木材としての利用価値等について、知ってもらいました。

今後、九月下旬に全校児童による「三本杭登山」を実施する予定で、さまざまな学習を通して森林や自然、林業などについての理解を深めてもらいたいと思います。



森林の大切な働き



六月二十九日、徳島県と高知県境に位置する三嶺国有林三六林班イ小班内のオオヤマレンゲ群生地において、三好市、剣山クラブ及び三好山歩会のボランティアの皆さんと防鹿ネット補修作業などを行いました。

当箇所は、徳島県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているオオヤマレンゲが群生しており、四国最大級の群生地



オオヤマレンゲ

とも言われています。平成二四年度には、三好市の天然記念物にも指定されました。

早朝から約三時間をかけて登山した総勢二八名の参加者は疲れも見せず、木製看板など標識類の設置、ネットの点検補修の二班に分かれて作業を始めました。

当日は梅雨の中休みで天候にも恵まれ、和気あいあいと賑やかに作業は進められ、三時間ほどで初期の作業を終えました。

剣山周辺はニホンジカによる食害が著しく、下草はもとより樹皮剥ぎ被害も深刻な状況となっています。

ネットの設置などにより、登山者の皆様には林内の散策などが制限され、ご迷惑をおかけしている状

況ですが、貴重な植生を残すために皆様のご理解ご協力を得ながら、今後も三好市と連携・協力し、作業を継続したいと考えています。



防鹿ネット補修作業



ボランティア参加者の皆様